



(ぞうれっしゃ 杉並台幼稚園 提供)

C.COM

2023.Oct vol. 89

平和とより良き生活のために
広島県生活協同組合連合会

子どもたちに平和な未来を!

特集

2023 ピースアクションinヒロシマ オープニング 虹のひろば合唱団 合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」



ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が長期化し、核兵器の使用も懸念される中、国際秩序が大きく変わろうとしています。そのような中、2023年虹のひろばではオープニングを飾る合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」を行いました。「ぞうれっしゃ」は作曲後、約10年間で100万人以上が歌ったと言われ、子どもから高齢者まで幅広い世代で構成され、合唱を通じて、参加者みんなで平和について考え、協力し、ひとつの課題を成し遂げることが出来る場になりました。虹のひろばでは1992年にはじめて歌われ、その後1993・2011・2012年に行い、全国の生協にひろがりました。また、1995年の阪神淡路大地震の際には、被災地からの要請で、“ぞう”が歌われ、被災者からは子どもたちから希望と元気が湧いてきたと大変喜んでいただきました。

この度の「ぞうれっしゃ」を行うにあたり、出演者、演出など多くの課題もありましたが、指揮者の先生方のご指導により練習を重ね、杉並台幼稚園、虹のコーラス、うたごえ協議会、そして松井一實市長にもご参加いただき、メンバーが一つになり、11年ぶりに広島県立総合体育館に「ぞうれっしゃ」が走りました。今後は地域に拡がる繋がりを期待し、発信していきます。



2023 ピースアクション
(YouTube)
ぞうれっしゃ 33分頃から

【ぞうれっしゃ】とは

1937年サーカスから名古屋の東山動物園にやってきた4頭のぞう「アドン、エルド、マカニー、キーコ」は子どもたちの人気者。でも戦争が激しくなり、各地の動物園では空襲により逃げ出したら危険だという軍の判断で動物たちがつぎつぎと殺されていきました。そんな中で東山動物園では、北園長さんを先頭にぞうたちを必死で守りぬいたのです。

戦争が終わったあと、生きのびた2頭のぞう「マカニーとエルド」をどうしても見たいという子どもたちの熱い想いにこたえる形で1949年6月に特別仕立ての「ぞうれっしゃ」が全国各地から名古屋の東山動物園に向かって走ったのです。

～「ぞうれっしゃ」に夢をのせて～ 杉並台幼稚園 古本 和 園長

令和2年2月新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中国から帰国し湯来町の祖母の家で過ごすようになった子どもが杉並台幼稚園に登園することになりました。中国の幼稚園で歌っていた「ぞうれっしゃ」の歌を教えてもらい、私もこの歌が気になり調べてみると、絵本や合唱組曲があることを知りました。今まで経験したことのない新型コロナウイルス、あたり前にできていた事ができなくなり、子ども達とどのように過ごすか、どんな事を経験していくのか考えていった時、このお話と出会い、子ども達の熱意で「ぞうれっしゃ」を走らせた大人のように、今できる事をできるようにしていこうと、平和学習をしているお話に加えました。子ども達は4頭の象のことが大好きになり、歌を口ずさみなが

ら積み木コーナーにぞうれっしゃを走らせたり、アドンやエルドなど4頭の象の絵を描いたりして遊びの中にお話がどんどん広がっていききました。職員も子ども達も「ぞうれっしゃ」と過ごした1年になりました。園児22名の小さな幼稚園ですが、地域で活動されているオカリナグループの方と一緒に、発表会ではみんなの想いの詰まった「ぞうれっしゃ」を走らせることができました。発表会が終わり作者である小出隆司先生に、こみ上げてくる想いと絵本に出会えたことの喜びをお伝えしたところ、名古屋から杉並台幼稚園まで来てくださり、絵本ができるまでの



古本園長

苦労話や幼稚園の頃遊んでいてもサイレンが鳴って「早く逃げて」と言われていた事、戦争は絶対にやってはいけない事などお話ししていただきました。

2021年11月3日広島国際会議場で行われた市民平和文化イベントにも参加していただきました。

今回の2023ピースアクションinヒロシマには幼稚園児5名と卒園児を含む小学生11名、このお話を紹介してくれた子どもも東京から帰郷し参加しました。練習では加島先生から声の出し方、表情など丁寧に指導していただきとても勉強になりました。また作曲

家の藤村記一郎先生の指揮のもと歌に込められる想いを知り、心を込めて歌うことができるようになる子ども達がとても素敵に思えました。本番ではドキドキすると言いながらもいい表情で一生懸命歌う子ども達を見ると、今こうして歌うことのできる喜び、毎日穏やかに過ごせることの幸せ、平和であることの大切さを改めて感じました。未だに地球上から戦争はなくなりません。私達もひとり一人の小さな力や優しい気持ちを合わせ、平和を願い素敵な未来に向かって「ぞうれっしゃ」とともに走り続けていきたいと思います。

2023ピースアクション in ヒロシマ 「ぞうれっしゃがやってきた」に参加して

広島市佐伯区 杉並台幼稚園

園児・卒園児

- ドキドキしたけどたくさんの大人のひとたちと歌えて楽しかった。園長さんのところの歌もうたえるようになったよ。
- 戦争がなくなって、みんなが仲良しでいたらいいなあ、と思う。
- 「ぞうれっしゃ」の歌やお話が大好き
- 一緒に歌うお友達ができてよかった

おたしはぞうれしさに喜んで
よかったです。
そのりゆうはわたしがい
ぜんそううれしかったから
ようちえんでやるときは、
こともないでやっていたの
おもてました。
でもおとなのひとに
やるとなるとはなないこと
とばかりおもてました。
とたんにおもいました。
たんだいとおもいました。
いまではまだかこないこと
りだけれどおとななら、
かかわるかな。
せもそうばないから
つからずといひでみんな
あつてほしいとおもいます。
(2歳児 阿部 1年)

せもそうばなくたってみんな
なやましていたらいいな。

ウクライナのせんそうが
なくなるといいな
(杉並台幼稚園 年長)



保護者

- すてきな平和イベントに参加することができ、親も子もいい勉強期間になり、戦争とはどういうことか、平和とはどういうことか考える良い期間になったと思います。これからもこれで終わりではなく、絵本を読んだり、歌を歌ったり、戦争や平和のことについて考えていく子どもでいてほしいと思います。
- 大勢の人の前で発表することが苦手な子どもですがそれほど緊張することもなく、楽しく歌うことができたようでした。幼稚園以外のお友達との時間も楽しかったようです。
- YouTube 配信されていたので本人も後で見ることができ、今でも歌をうたっています。このことをきっかけとして、これからも戦争や平和について話していけたらと思います。

職員

- 3年間、歌い続けてきた「ぞうれっしゃ」で今回のイベントに参加して、また新たに知ることを感じる事がたくさんありました。作曲者の藤村先生のお話も聞くことができ想いを知り、当時のようす、絵本の内容など頭に浮かび今まで以上にこみ上げてくるものがあり、最後の「ぞうれっしゃがやってきた」の歌ではより喜びの気持ちを込めて歌うようになりました。日々子ども達と過ごす中で、発見、出会い、楽しみなどたくさんの小さな幸せを積み重ね、この子たちの未来が平和で幸せであるように大切に過ごしていきたいです。

2023 ピースアクション in ヒロシマで11年ぶりに 「ぞうれっしゃがやってきた」を大合唱

～ぞうれっしゃに参加して～

「ぞうれっしゃがやってきた」という題名からだけでは想像もつかないストーリー展開があるこの歌は、それを歌う人も聞く人も虜にしています。また、人々を自然とポジティブな気持ちにするメロディーを基調にしながらも、時に悲しく、時に激しく心を揺さぶるメロディーが織り込まれることで、いつまでも心の中で響き続ける名曲であると感じ



ています。

私としては、悲慘な想いにつながる戦争というものがこの世にないようにと

の願いを込めながら、皆様と、また、未来を担う子供たちと心をひとつにしてこの歌を合唱できたことで、平和な世界の実現に向けて希望の光を見た思いであり、大きな勇気と感動をいただきました。このような機会をいただき、心から感謝しています。



松井一實 広島市長

皆様には、これからも核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動してくださることを心から期待しています。

～広島での「ぞうれっしゃがやってきた」演奏を終えて～

広島生の協のみなさん、演奏に参加された皆さん、ご指導、伴奏の先生方、今回は思い出深い「ぞうれっしゃ」の演奏に関らせていただき、心から感謝しています。

「豪雨の警報レベル3」が出されていた6月30日夕方、翌日の「ぞうれっしゃ」練習のために広島入りし、岡村理事長とも再会、今回の取り組みへの熱い思いを伺いうれしくなりました。

翌日の練習会で、広島市の松井一實市長も2時間の練習の全て歌ってくださり感動、杉並台幼稚園の子どもたちもがんばってくれて、加島裕美さんの存在も心強く、やれそうだ、という実感。

初めて歌う方に、作曲者としての思いを楽しく伝えられたら、と思いながら練習時間はあっという間に終わりました。でも、それで本番に臨むにはまだ練習が足りない、と思い7月末に再び練習に來させていただきます、ずいぶん見通しができました。

本番は、子どもたちも増え、それまでの練習の成果がしっかりと発揮され、終了後の皆さんのやり切った表情、松井市長との握手、名古屋の中日新聞から

の取材もうれしく、大きな舞台上で熱い演奏をやったこと、参加された方々の心に、そして子どもたちの心にしっかりと刻み込まれたと思います。



ぞうれっしゃがやってきた
作曲者：藤村記一郎 先生

ぼくは、この12月24日、愛知県から100人以上が参加し、沖縄の読谷村を舞台にした合唱曲、オラトリオ「鳳の花蔓」読谷公演を行います。また、来年4月28日には、愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団として、福島を忘れない、という思いでミュージカル「バックトゥザ・フーちゃんⅡ」東京公演を行います。

そして、来年2024年は、本物のゾウ列車が走って75年の節目の年。名古屋でも来年に向かって、ずっと「ぞうれっしゃ」練習に取り組んでいます。皆さんにも、またお会いして、今度はぜひ、全曲上演したいと願っています。

～優しさと愛を育む素晴らしい平和学習～

最初の練習日、3歳から90代の方までご参加くださいました。2時間という練習の時間が子供たちに耐えうるのだろうか、しかも大人も一緒に練習するのに…そんな不安を抱えながら臨みました。音取りをしている間、小さな子達はお母様のお膝で眠ってしまっていました。さあ歌う! となったら起きてスラスラと歌い始めたのです。そう、私だって部屋の掃除をしながら“サーアカースは～♪”と毎日口ずさんでいるじゃない! それほど楽しくて思わず歌いなくなるメロディ! 私の心配などただの杞憂でした。

稽古の中では、象の名前を覚えたり、岡村会長や藤村先生のお話を一生懸命聞いたりもしてみんな象たちの事を大好きになり、またこの出来事について大切なことをしっかり学びました。本番間近には、初回には名前を

呼ばれると恥ずかしがって母親の胸に顔を埋めてしまっていた子たちも仲間の列にきちんと並び、瞳をキラキラと輝かせて歌う姿がまぶしかった! 子供たちはこの歌を思い出すたび「こんな悲しい出来事が2度とあってはならない」という思いを、成長するにつれ大きく膨らませていこうと思います。

自分たちで未来の扉を開いた子ども議会、それを見守る大人たちの温かいまなざし。私たち大人も、未来を作るのは「夢の力」なのだ…ということを学ばせられました。こんな素晴らしい機会に携われたことに心から感謝しております。



加島裕美 先生

練習開始～当日までの軌跡



第1回練習 5月14日(土) 緊張の中「ぞうれっしゃ」が出発



7月1日(土) 作曲家 藤村先生のご指導



7月1日は松井市長にも練習にご参加いただき、参加者全員で記念撮影



第9回練習 子どもメインでおこない、大きな進歩。完成間近

来場者の声(ぞうれっしゃ)

- ぞうれっしゃの合唱は初めてリアルタイムで拝見させていただきました。涙が溢れるのを堪えようとしたが、やはり無理でした。演者の皆さん、スタッフの皆さん、ありがとうございました。
- オープニングのぞうれっしゃの歌に感銘を受けました。特に子供達のはつらつとした歌声が素晴らしかったです。いつまでも、子供達が元気で明るくられる世の中であって欲しいと感じました。

参加者の声

- 「この度の『ぞうれっしゃ…』は、子ども達の頑張りが一番でした。指揮者・伴奏者・担当責任者の方々、子ども達と団員、みんなの思いが共鳴することで感動を分かち合うことができたのだと思います。戦争では無垢で無力な者が犠牲になる。改めて胸に刻む機会でした。」(虹のコーラス)
- コロナ禍の3年があり、虹のひろば合唱団の活動ができなくなって、再開はいつ、不安な時期をすごしていました。2022年「虹のひろば」の際に「来年はぞうれっしゃを演奏したいがどうだろう」とお話しがあり心から「うれしい」と思いました。この度のぞうれっしゃは杉並台幼稚園の皆さん、うたごえ協議会の皆さんと共同でおこなうことが出来ました。これからもこのきずなを大切にしたいと思います。(虹のコーラス)
- 何回も練習を重ねる中で、子どもさんの成長や参加者の一体感が生まれ、貴重な経験になりました。平和を願いこれからも歌っていきます。(生協ひろしま組員)



『未来につなぐヒロシマの心 ～被爆 2023 ピースアクション in』

8月4日～5日の2日間、広島県生協連は日本生協連と共催で「2023 ピースアクション in ヒロシマ」を開催しました。

78年前のきのこ雲の下での出来事、被爆者の想いを学び、世界情勢が大きく変化する中、改めて平和の尊さに想いを馳せ「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現に向けて世代を越えて交流しました。全国の生協や団体などで取り組んでいる平和の活動や、被爆の実相や被爆者の思いを継承する次世代の若者の取り組みを企画しました

8月4日(金) 分科会

※分科会は実開催

企 画 (敬称略)			
①	【室内碑めぐりガイド】 生協ひろしま碑めぐりガイド代表 新谷 美樹子	④	【平和講演】広島県生活協同組合連合会 代表理事会長 岡村 信秀
②	【被爆の証言】広島県原爆被害者団体協議会 理事長 佐久間 邦彦	⑤	【被爆の証言】広島被爆者団体連絡会議 事務局長 田中聡司
③	【被爆体験詩の朗読会】演劇集団ふらっと	⑥	【デジタルアーカイブを活用した平和の継承】 東京大学大学院渡邊英徳教授 CO・OP PEACE MAP など

分科会 参加者の声

- ・新谷さんの優しい話し方にほっこりしながら、詳しくお話が聞けてとても有意義な室内碑めぐりでした。夕方に記念公園に行った際の参考になりました。ありがとうございました。(おかやまコープ)
- ・現地に足を運び、直接、証言者(佐久間邦彦さん)の方の話を聞く事ができ、貴重な体験となりました。
佐久間さんがおっしゃっていた、核兵器(戦争も)、弱い者が犠牲となり、何よりも、子供の未来を奪う…という言葉に、子を持つ母として胸をうたれました。(コープおきなわ)
- ・被爆から78年といわれていました。あと10数年で被爆者もいなくなります。こうした機会に参加するだけでなく、共有者を増やす、自ら行動することが必要かつ、時間が限られていると考えさせられました。(三重大学生協)
- ・まさに今からの伝承活動!だと思いました。広島、長崎のアーカイブはこれから先も半永久的に残せる貴重なデータ。かたりべさんの話も人から人へ想いをこめて伝える大切な継承。それにデジタルのデータをプラスすることでさらにリアルに伝わるのですね。" (コープやまぐち)



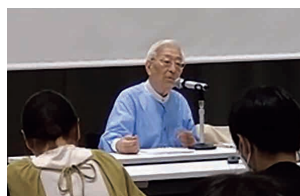
デジタルアーカイブを活用した
平和の継承



室内碑めぐり



被爆の証言：佐久間理事長

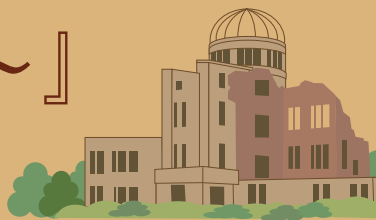


被爆の証言：田中事務局長



平和講演：岡村会長

78 年戦争も核兵器もない世界を～』 ヒロシマ」を開催しました。



8月5日(土) 分科会及び虹のひろば（みんなのひろば）

広島県立総合体育館・グリーンアリーナ・ひとまちプラザ

企画	参加
【ユースフォーラム】 パネリストの若者たちが平和な未来について語り合い交流	106 人
【第 1 部 虹のひろば】（現地開催＋オンライン配信） ・ ご来賓挨拶 広島市長 松井一實様、長崎市長 鈴木史郎様（ビデオメッセージ） ・ オープニング 虹のひろば合唱団による合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」 ・ 被爆の証言 廣中 正樹さん ・ 広島県内の大学・高校生協取り組み 広島市立基町高等学校 創造表現コース 私立崇徳高等学校 新聞部 広島市立大学 ヤング・ピース・ビルダーズ ・ 平和企画検討会活動報告	実来場 約 800 人 オンライン 約 870 人
【第 2 部 みんなのひろば】（現地開催のみ） ・ 安田女子大学・高校 書道部による書道パフォーマンス ・ 全国の生協、各団体、行政、高校・大学等の展示紹介 ・ フィナーレ：生協ひろしま、福山医療生協虹のコーラス 参加者一体となり「青い空は」を大合唱	みんなのひろば 実来場のみ 以上



松井市長



会場風景



ぞうれっしゃ



安田女子大・高校

第 1 部「虹のステージ」主催者挨拶の後、広島市松井一實市長、長崎市長鈴木史郎市長（ビデオメッセージ）から来賓のご挨拶をいただきました。オープニングは虹のひろば合唱団、約 100 名による合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」。指揮は作曲者の藤村記一郎先生、広島市松井市長にもご参加いただき、広島市杉並台幼稚園の園児、卒園児も参加し、一緒に約 30 分間、平和を祈り熱唱しました。

被爆体験を広島平和文化センター被爆体験証言者の廣中正樹さんに被爆証言と核兵器廃絶に向けての想いを話して頂きました。また、廣中さんの証言を聞き、「原爆の絵」を制作された基町高校の生徒さんの想いなどをお聞きました。

続いて広島県内の高校生、大学生からの平和へのメッセージ。崇徳高等学校新聞部は G7 広島サミット取材特別編成班より報告がありました。また、広島市立大学ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズの皆さんから平和の朗読劇をお聞きました。

第 2 部「みんなのひろば」では、安田女子大学・高等学校、書道部による「大書パフォーマンス」に参加者は引き込まれました。全国、県内の生協から多くの出展があり、行政からは広島県へいわ創造機構ひろしま（Hope）、（公財）広島平和文化センター（平和首長会議）が出展し、参加来場した全国の生協の仲間と交流しました。

フィナーレは、「生協ひろしま虹のコーラス・福山医療生協虹のコーラス」が「青い空は」を平和への想いを込めて歌いました。

来年、またここで会えることを約束して幕を閉じました。



安田女子大・高校



崇徳高等学校



折鶴再生事業



フィナーレ（虹のコーラス）



基町高校と廣中さん



被爆の証言（廣中さん）



平和企画検討会

県連からのお知らせ

新任常務理事のご紹介



広島中央保健生活協同組合 専務理事 田中 敬子

私が所属している広島中央保健生協で組合員活動を担当しておりました時の、県生協連主体での「けんこうチャレンジ」の推進や、介護分野では生協間連携のもと「生協 10 の基本ケア」の学びと実践の展開などを、大変心強く感じてまいりました。この度、常務理事を担わせていただくこととなり、安心して暮らし続けられる地域づくりにさらに奮闘していこうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



広島修道大学生生活協同組合 専務理事 長谷川 英男

私は、大学在学中に大学生協で始めたアルバイトが、生協との出会いでした。卒業後大学生協に就職して働き続け、2009年1月に広島修道大学生協に異動となり、2014年5月から現職並びに県連の理事を務めております。生協の魅力は、組合員と共に事業や組織活動に取り組み、成果を生み、喜びを分かち合えることだと思います。力足らずの部分も多分にあると思いますが、県連の常務理事として精一杯役割を果たす所存です。どうぞよろしくお願い致します。



日立造船因島生活協同組合 専務理事 箱崎 弘

「ウイズコロナ」を前提に経済活動が正常化へ徐々に進んできたことは明るい動きとなりました。一方、エネルギーや食料等の価格高騰などを背景に、組合員の生活不安や負担は増すばかりです。予測困難の時代だからこそ、連帯の力を発揮し県民の暮らしや声に寄り添えるように微力ながら進めて参ります。



生活協同組合ひろしま 常勤理事 重信 均

私は、生協ひろしまで30数年間、生協の事業・活動に携わらせて頂いています。この度、広島県連の常務理事に就任させて頂くにあたり、生協とは何か、その価値は何かを改めて心に刻む必要があると感じています。県内生協の連帯は歴史的に県連を中心に拠点生協づくりに取組まれ発展し続けており、就任研修において、その認識を更に深めています。私自身は、役不足な面が多々ありますが、精一杯努めさせて頂きます。どうぞよろしくお願いいたします。

8月4日(金)に4年ぶりとなる 2023 市民平和行進を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度から中止となっていた市民平和行進を4年ぶりに開催しました。当日は広島市中区アリスガーデンを出発し、広島本通りアーケード中心に行進を行い、平和記念公園まで行き交う歩行者の方々に、うちわや手を振り、戦争も核兵器もない平和な世界の実現をアピールしました。

出発式では主催市民6団体を代表し、広島県被爆者団体協議会佐久間邦彦理事長、広島YMCA 竹井幸義総主事より挨拶がありました。



佐久間理事長

その後、組合員を代表して生協ひろしま草野みどりさんから平和へのメッセージをいただき、2023しこくピースアクションリレー実行委員会を代表してコープかわ木村誠理事長より横断幕の引継ぎと挨拶がありました。

熱中症やコロナ感染拡大も心配されていましたが広島県内だけでなく、山陰、四国など各地の生協の組合員さん、役職員の皆さん約200名が参加しました。

平和記念公園に到着後、慰霊碑に献花し、供養塔前広場で

集結式を行い、主催者の広島県被爆者団体協議会箕牧智之理事長、広島県生活協同組合連合会岡村信秀会長理事が挨拶し、広島市長松井一實様のメッセージを広島市市民局長の村上慎一郎様が代読されました。

また、ピースアクション in オキナワに参加された佐々木悠良さんから、行進に参加して感じたこと、オキナワで思ったことなど、平和に対する想いを伝えていただきました。

集結式の最後は、被爆ピアノの調律士矢川光則さんにご協力いただき、被爆ピアノによる演奏の中、生協ひろしま虹のコーラスの皆さんのリードにより「青い空は」「ヒロシマの有る国で」を全員で合唱し、2023年の市民平和行進集結式を終えました。



2023子ども平和会議が開催されました。

開催日：8月7日(月) 10:00～12:00

全体司会：子ども平和会議 議長団4名、参加者：56名(オンライン)

議長団：崇徳高校3年生、広大附属高校2年生、長崎活水高校2年生2名

学習内容：ピースバトン・ナガサキ代表 調仁美様より「核兵器と平和について」の学習が行われ、10グループに分かれてテーマ「戦争や核兵器の使用など争いごとをなくすために私たちができること」について交流し、各グループから発表がありました。



2023ピースアクション in ナガサキ虹のひろば 8月8日(火) 13:30～

虹のひろば内で子ども平和会議アピール文を発表

前日に行われた子ども平和会議を受け、議長団4名がステージでアピール文を発表、広島県から崇徳高等学校3年稲田君、広大附属高等学校2年宮下さんが議長として参加し、報告を行いました。



(アピール文)

それぞれ違う個性を持った人どうしがぶつかりあうことは自然なこと。人はそこから、進化とともに成長してきました。それは今も同じことです。これから生きる私たちが平和な世界を目指していく必要があります。

そのために平和学習などを通じて、「知る」ことが重要です。

戦争の恐ろしさを知るには、実際に目にし、耳にすることです。

被爆者の被爆証言を聞き、被爆遺構などの建造物から被害の大きさを学ぶことができます

それら学んだことを、SNSでは英語などに翻訳するツールを用いれば、世界に発信することもできます。

さらに漫画やアニメなどのコンテンツで発信すれば、世界中の多くの人に平和を考えるきっかけを与えることもできます。

私たちに、ヒロシマ・ナガサキの心を継承する責任があります。被爆者が勇気を出して、記憶の引き出しから、あの日の惨状を伝えてくださっていることを重く受け止め、未来世代に伝えていかなければなりません。

ヒロシマの悲劇、ナガサキの惨禍を繰り返さないために、自らが被爆の実相に触れるだけでなくさまざまなコミュニティやツールを用いて、人から人へ、記憶と記録を伝えていきます。

2023年8月7日
ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ 子ども平和会議 参加者一同



ピースナイター2023を開催しました

8月6日(日)ピースナイター 2023を開催しました。核兵器廃絶と戦争のない世界の実現に向けたメッセージを被爆地ヒロシマから発信していく目的で始まったピースナイターは今年で16年目を迎えました。始球式は被爆3世で呉市出身のシンガーソングライター瀬戸 麻由さんが務めました。「核政策を知りたい広島若者有権者の会(カクワカ広島)」のメンバーとしても活躍されています。

今年は4年ぶりにグランドパフォーマンスをおこないました。応募の組合員15家族21人と、高校生25人が参加し5回裏にグランドでピースナイター新聞を大きな円になって掲げるパフォーマンスをおこないました。観客席では2階の最上段に赤い新聞のピースラインがきれいに並び、原爆ドームと同じ高さで平和の尊さを訴えました。30,951人の観客の思いが一つになった瞬間でした。

(報告:生協ひろしま)



グランドパフォーマンス



始球式



バックスクリーン

帰ってきた8・6フリーマーケット

広島中央保健生協



7月25日(火)、気象庁の梅雨明けを聞くまでもなく、青く広がる夏の空とジリジリの太陽の下で、8.6実行委員会主催の平和を支える財政活動「8.6フリーマーケット」を開催しました。毎年、6月～8月の期間、原水爆禁止世界大会の成功と平和を学ぶ集中月間として、職員が取り組む8.6実行委員会はコロナ禍で、さまざまな行事ができなかった3年間を経て再開しました。初参加のもみじ作業所さんも加えて職場10店舗がパン屋やお菓子、病院に届いたお中元のジュース、遊休品などを販売しました。商品の値段には試行錯誤が現れており、驚くような安い値段で販売され、見るだけでも楽しくなりました。開催の1か月前から、福島生協病院ではポスターを掲示して来院者にご案内をしていました。当日は「夫と受診した時にポスターを見て、遊びにきたの」という方や小さい子供さんと健診の待ち時間にのぞいてくれた若いお母さんなど様々でした。

3年振りのフリーマーケットを初めて経験する職員もあり、広島中央保健生協の平和の取り組みや8.6実行委員会の取り組みを知る機会となったのではないのでしょうか。

8.6実行委員会





～障害を知り、共に生きる～

障害のある方のアート作品展『あいサポートアート展』を開催します

障害のある方の豊かな感性から作り出されたアート作品を集めた、県内最大級の展示会『あいサポートアート展』を開催します。

このアート展は、障害のある方が芸術活動への参加を通じて、生活を豊かにするとともに、県民の皆様が障害への理解と認識を深め、障害のある方の社会参加の促進に寄与することを目的に開催しており、今年で12年目を迎えます。

各会場の開催の初日と最終日には、あいサポートアート展審査員が、入賞作品などを中心に作品の解説を行う「ギャラリートーク」も予定しています。

入場は無料となりますので、ぜひ、美術館にお越しいただき、障害者アートに触れてみてください。

お問い合わせ

広島県障害者支援課 082-513-3155



広島会場

とき 2023年10月31日(火)～11月5日(日)
ところ 広島県立美術館 地下1階「県民ギャラリー」
(広島市中区上幟町2-22)
ギャラリートーク：10月31日(火) 13:40～
：11月5日(日) 14:00～

福山会場

とき 2023年11月28日(火)～12月3日(日)
ところ ふくやま美術館 1階「ギャラリー・ホール」
(福山市西町2-4-3)
ギャラリートーク：11月28日(火) 11:30～
：12月3日(日) 14:00～

適格消費者団体NPO法人 消費者ネット広島からのお知らせ

「消費者トラブルの手口を知りましょう」②

消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

親が気づかぬうちに ゲーム課金トラブル

相談内容

先日、携帯電話代金が高額になっていることに気づき調べてみると、13歳の息子が使用しているスマホの8月の利用額が10万円を超えていた。
本人に確認すると、夏休み中にスマホでオンラインゲームをしたときメッセージが出ることがあったが、そのまま利用していたとのこと。息子のメールを確認すると、決済のたびにメールが来ていて、ゲーム課金の総額が10万円以上あった。スマホは息子用のもので、利用する時間や課金のルールなどは特に決めてなかった。親の管理が甘かったことは認めるが、息子は課金している認識がなかったし反省していて、もうしないと言っている。返金してもらえないだろうか。
(40歳代 女性)

アドバイス

相談者には、民法の規定に基づき未成年者が保護者などの法定代理人の同意を得ずにした契約は取り消しできるとされていることを説明し、事業者に連絡してみるよう助言しました。
※未成年者が年齢を偽り、契約をした場合は取り消しできない場合があります
(消費者ネット広島加筆)

○子供のアカウントを管理、保護しましょう。

子供のゲーム利用を管理、保護するための仕組みとして、プラットフォームごとに「ペアレンタルコントロール」という機能が備わっています。「ペアレンタルコントロール」を利用することで、子供のアカウントでの課金を制限することができます。また、オンラインゲームで課金するためには、プラットフォームのアカウントや、各種の決済手段の利用が不可欠です。子供が保護者の許可なく課金してしまうことのないように、保護者のアカウントとで子供に利用させることは避けましょう。

○課金のルールを話し合っておきましょう。

オンラインゲームの中には、アイテム等を手に入れるために課金が必要なゲームがあるので、アイテムを購入する際のルールについて、家族でよく話し合しましょう。また、子供が無断で現金やクレジットカードを持ち出すことがないよう、見つかりにくい場所に保管するなど、適切に管理しましょう。

○未成年者取消の方法が分からないときや事業者との交渉で不安なときは、消費者ホットライン(☎188)に相談してください。

(ここに紹介する相談事例は一つの参考例です。同じような商品・サービスに関するトラブルであっても、個々の契約などの状況などが異なれば、解決内容も違ってきます。)

(広島県生活センター発行 くらしのフレッシュ便 令和5年9月号より)



佐藤 優

広島市立大学国際学部4年生。2001年宮城県生まれ。原爆や平和について学びたいと思い広島の大学へ進学。2021年から2022年まで広島平和記念公園を訪れる海外からの観光客をガイドするユースピースボランティアとして活動。広島平和記念資料館で資料整理などのボランティアにも取り組んでいる。昨年は「ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズ」を結成し、被爆者・切明千枝子さんの証言をもとに、被爆建物「旧広島陸軍被服支廠」を舞台とした紙芝居「8月のウサギ〜被服支廠物語〜」を制作。

「物語で平和を発信」

ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズは、広島から平和を伝えることを目的として活動している団体です。平和発信の仕方は多様ですが、私たちは「物語」を伝えることで平和を発信しています。今回は、広島市南区にある「旧広島陸軍被服支廠」をテーマとした物語を、被爆者・切明千枝子さんのお話をもとに制作しました。出来あがったシナリオを小学生に朗読し、児童たちに一番印象に残った場面を絵で表現してもらいました。今回のプロジェクトでは、県内外から71枚の作品が集まり、それらの作品をもとに、紙芝居作家の方に原画を制作していただき、現在は紙芝居というかたちで発信しています。多くの方々に私たちが制作した物語に触れてもらい、この活動が、誰かの平和について考えるきっかけ、そしてヒロシマのことを知るきっかけになればと願っています。

今年8月には、ピースアクション in ヒロシマにて紙芝居を披露させていただきました。私たちにとって、これまでの発表の機会の中で1番大きな舞台でした。全国から集まった方々

に被服支廠のこと、そしてこの物語を通して戦争や平和について伝えることができ、とても嬉しく貴重な経験でした。被服支廠のことを知らなかったという方も多くいて、そういった方々にこの物語をきっかけとして知っていただけたのは本当に嬉しかったです。

2023ピースアクション in ヒロシマでは、他にもいろいろなかたちで平和に関する発表がされていました。それぞれのかたちが正解であって、意義のあるものだと思います。私も、自分にできることを一つでも多く見つけ、平和のために努力を続けていきたいと思っています。



編集後記

この度のC.COM 89号では「ぞうれっしゃがやってきた」に参画いただいた、皆さんにスポットをあてて特集を組みました。8月5日の2023ピースアクションinヒロシマでの合唱構成まで、5月から練習に取り組み。当日は100人を超える方が参加されました。この合唱は子どもから大人まで幅広い年代で構成され、平和を願い、歌う姿。また、練習を通じて、日々成長していく子どもの姿に感動しました。この特集をひとつのきっかけとして、多くの人に「ぞうれっしゃ」を知っていただき、そして、県内から全国へ「ぞうれっしゃの輪」が広がることを願います。今、わたしたち一人一人が出来る活動をおこない、平和の実現に向けて一歩、一歩進んでいきましょう。(塩野)